

第67回役員会 議事要録

日 時：平成27年4月27日(月) 14:00～15:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

議 案

- 1 管理職手当及び管理職員特別勤務手当の改正について
- 2 国際交流協定等の締結について
(1) フォート・ルイス大学との学生交流協定
(2) ダナン大学との学生交流協定

報 告

- 1 「シリーズ 北九大の挑戦」第2巻の刊行について
- 2 P l a n 2 0 1 5について
- 3 教員の昇任選考について
- 4 ㈱スターフライヤーとの連携協力に関する協定の締結について
- 5 平成27年度入学者数等について

議案1 管理職手当及び管理職員特別勤務手当の改正について

<質疑応答>なし

【議長】原案どおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 国際交流協定等の締結について

- (1) フォート・ルイス大学との学生交流協定
- (2) ダナン大学との学生交流協定

<質疑応答>

- 現在の応募状況はどうか。
- 応募はこれからである。
- 北方キャンパスでは、グローバルパイオニアが浸透してきており、英語圏への応募、特に交換留学は授業料負担がなく、単位互換もあるため、相当数の応募を期待している。
- 日本人学生がダナン大学へ行くことはあまり期待できないが、ダナン大学から本学へ来ることはあり得る。本学の教員がダナン大学へ行き、交流を深めており、本学に対して交換を持っている。
- 2年前に、ダナン大学の学長が本学へ来られた際、ひびきのだけでなく、北方キャンパスとも交流したいとのことであった。環境ESDにおいて、実施が可能であり、一定の人数が集められるということで、今回の協定に結び付いた。

【議長】原案どおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 「シリーズ 北九大の挑戦」第2巻の刊行について

<質疑応答>

○この本は、70周年記念事業の一環として、来年度までにシリーズで全5巻を発行予定であり、今回は2巻目となる。このシリーズは、平成17年度の法人化以降、第1期中期計画の間に大きな大学改革を行ってきたが、第2期中期計画の間でその成果がどのように反映されたのかを取りまとめるという趣旨から始まったものである。第1巻は、学生サポート支援を教職協働で行った取り組みについてである。第2巻は、新しい組織である地域創生学群の取り組みについて、この本を見ればわかるように、眞鍋先生に取りまとめていただいたものである。先日、公立大学協会の理事会で配布し、非常に好評であった。今後、公立大学の職員研修があるが、その中でもこの話をしたいと考えている。本学の地域創生学群は設置して6,7年が経過し、課題も抱えているが、現在の状況としてこのようにまとめたものである。

報告2 P l a n 2 0 1 5について

<質疑応答>

- 平成23年度から平成28年度の期間で、70項目の中期計画を作成している。それに基づき、毎年120から130の年度計画を策定している。この Plan はそれをもう少しわかりやすくしたものである。中期計画は市から評価を受けるが、この大学が独自に策定した Plan は、かなり高い目標設定を立てて、その方向性を周りに示すものである。
- GEP は平成24年度から始まったか。
- GEP は、補助事業が採択される前からである。
- 修了生と卒業生の違いは何か。
- 卒業生は、主専攻を修了した学生である。修了生は GEP を修了した学生である。
- もっと受講する人数を上げなければならない。
- 受講生へのインセンティブを考える必要がある。また、全ての講義を専任教員で賄うことが難しいので、一部は業者に委託しているところである。
- 学生に対する意識づけが必要である。
- 入学当初はやる気があり登録も多いが、授業が進むにつれ、受講する学生が減ってくる。
- GEP を修了した学生が企業で評価されることが重要である。
- 企業からは、GEP を修了した学生を採用したいとの要望も出てきている。
- グローバル社会に対応した教育組織の改革については、具体的にはどういう内容か。
- これからの検討事項なので具体的には言えないが、外国語学部は語学と文化を中心に構成されているが、最近、例えば福岡県立大学などでは語学をベースとして他の専門分野を学んでいく、あるいは APU のようにビジネスを意識した学部などがある。本学においても、語学を一つのスキルとして、文化やビジネスなどを学ぶことができる学部を新しく作り直すことが非常に大きな課題である。学長の基に学長補佐を置き、具体的な検討を進めて行く。当然、グローバルとの連携も進めて行く。
- 既存の外国語大学は、中身が変わってきている。その中で、どの大学がモデルケースとなるか、学長補佐や副学長が他大学に調査行く予定である。平成25年度に始まった新しいカリキュラムは平成28年度に完成年度となり、それ以降の見直しとして現在検討している。

- 本学に入学した学生の父兄の方や、この大学で学んで満足した学生の視点のページがあればよかったと思う。
- 卒業生にはアンケートを実施し、高い満足度を得ている。学生がそのような点で満足しているかというのは非常に重要である。また、卒業後の学生に対しても調査していきたいと考えている。
- 昨年度に大学教育加速再生プログラムの学習成果の可視化に採択された。現在、学生が具体的にどのような科目を受講し、どのように伸びたのか、可視化できる指標等を特任教員が開発しているところである。
- 昨年度、北九大チャレンジシリーズの一環で学習支援のサポート体制について出版した。これは教育プログラム外の学習支援である。教育だけではなく、生活自体のサポートを教職員が行っている。
- 学生が卒業後、このようなことをやってほしかったという声が出てきて、大学の経営の刺激になればよい。
- 大学が、外部からどのように見られているかということである。新聞社や社会などの評価が高いと、外部だけでなく、大学内部の満足度も上がる。企業も日経からランク付けをされており、利益だけでなく、地域貢献やグローバルの視点でも評価されているが、評価を上げていくのが難しい。
- 日経が実施している地域貢献度ランキングでは毎年上位にランクインしており、新聞社が実施しているランキングの中でも、約800ある大学のうち、いくつかの項目で上位にランクインしている。
- 知名度も非常に重要である。

報告3 教員の昇任選考について

<質疑応答>なし

報告4 (株)スターフライヤーとの連携協力に関する協定の締結について

<質疑応答>なし

報告5 平成27年度入学者数等について

<質疑応答>なし